

# 令和5年度 岡山県立矢掛高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年2月20日(火) 14:05～16:45  
場所 矢掛高等学校 会議室  
司会 田中宏和  
書記 吉岡雄志  
欠席 堀賢一、宮本浩治

## 【会長】

榑崎 裕志 地域住民・学識経験者  
(元中学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長)

## 【副会長】

藤原 立志 地域住民・学識経験者 (元小学校校長、矢掛高等学校同窓会副会長)

## 【委員】

入野 晶彦 地域住民 (山陽新聞矢掛支局支局長)  
奥村 美恵 地域住民 (矢掛高等学校地域協働活動コーディネーター)  
小野 秀明 学識経験者 (矢掛中学校校長)  
金子 晴彦 地域住民 (前矢掛町観光交流推進機構理事長)  
田尻 佐知子 保護者 (矢掛高等学校PTA会長)  
堀 賢一 地域住民 (矢掛町役場総務防災課課長、元矢掛高等学校PTA会長)  
堀 伸二 地域住民 (備中西商工会矢掛地区代表理事、矢掛町観光交流推進機構理事長)  
宮本 浩治 学識経験者 (岡山大学大学院教育学研究科准教授)  
高月 秀人 矢掛高等学校 校長

## 【事務局】

田中 宏和 矢掛高等学校 教頭  
瀬尾 洋司 矢掛高等学校 事務長  
吉岡 雄志 矢掛高等学校 主幹教諭、ESD課長  
植田 雄介 矢掛高等学校 教務課長  
岡野 太郎 矢掛高等学校 生徒課長  
横溝 清明 矢掛高等学校 進路課長

## 【次第】

### 1 開会

- ①会長挨拶
- ②校長挨拶

### 2 説明・協議

- ①令和5年度学校自己評価アンケート集計結果について
- ②令和5年度学校自己評価(最終)の説明
- ③質疑・応答  
～休憩～
- ④教育活動の進捗状況と今後の課題について  
高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業の最終報告  
矢掛高校魅力化の現状  
授業改善
- ⑤質疑・応答
- ⑥その他

### 3 連絡

### 4 閉会

副会長挨拶

## 【議事録】

- ②校長挨拶(高月校長)

## 1 開会

### ①会長挨拶（檜崎）

今年度3回目の協議会。いろいろな意見をいただくことになる。  
高校の教員も頑張っているが、今日の議論が矢掛高校のためになるものになればよい。

### ②校長挨拶（高月）

特別入試の募集人員は普通科は募集定員の50%、地域ビジネス科は募集定員の80%である。定員を若干割っていたが、広報の効果が出たと思われる。ただ、備西地区では生徒数が減っており、引き続き魅力化が必要である。

大学の推薦入試は終わった。ホームページに合格した大学名を掲載している。金沢大学への合格者も出た。出口に向かって生徒とともに頑張っていきたい。

前回いただいた、「矢掛高校としてどのような授業を目指しているか」という問いかけに対する答えを考えていくために、矢掛中学校に多くの教員が授業を見学しに行った。矢掛町唯一の中学校、高校として連携を深めたい。

今日は指導、助言ではなく、全員で今後の矢掛高校のあり方を考えるために議論をしていきたい。

## 2 説明・協議

### ①令和5年度学校自己評価アンケート集計結果について（吉岡）

別紙に基づいて説明。

②について現3年生が1年生の時から比べると肯定的意見10ポイント程度が低下している。小中学校での授業を通じて生徒たちがどんな授業を「よい授業」と考えているのかを踏まえながら研究していきたい。

堀伸二

どのような項目に満足感を得ているのか。

生徒に具体的に何に対して満足を得ているか聞けば、具体的な対策が見えてくるのではないか。

藤原

なぜ、現2年生の保護者の⑩は25%減か？

檜崎

2年生探究コースの⑩が低い要因は何か。

吉岡

生徒指導に納得しない生徒が一定数いた。そうした生徒とそれを見ていた周囲の生徒も満足度が下がったと考えられる。

探究コースは2年生になって、難易度や学習のペースが上がるのが原因と考えられる。

檜崎

クラス、科、コースによって差が出るか。

吉岡

担任の力量による。生徒に合わせるばかりがいいわけではない。地域ビジネス科2年生はきちんとした規律を示すことで指導に納得し、満足度が上がっている。

### ②令和5年度学校自己評価（最終）の説明

植田（教務課）

教員が授業公開や授業改善を積極的に行った。継続していきたい。

岡野（生徒課）

生徒と教員の満足度の指標が違う。生徒は「してもらって」初めて満足を感じている。主体的な活動を行ったことの充実感をどうやって味わわせるか。核を持たない、世間の風潮に流される生徒が多い。人間力を鍛えた上で地域連携の旗印としたいが生徒の受け身体質によって難しくなっている。

横溝（進路課）

講演会や生徒面談を行って、コミュニケーションは取れた。進路実現のために必要な学習時間と実際の学習時間にはギャップがある。少人数のため、生徒にかかわる時間が多く取れている。

吉岡（ESD課）

先進地視察に行けば積極的だが、自分から先進地視察に行こうとする生徒は少ない。生徒が一步を踏み出すサポートをしっかりとりたい。

檜崎

学年団の様子はどうだったか。

吉岡

1年生は人間関係作りに課題があった。3年生は進路決定を引き続き頑張らせたい。

### ③質疑・応答

入野

いろいろな課題がある。その中で「ギャップ」を乗り越える「最初の一步」が高校では大切だったと感じている。自分の高校時代を振り返ると外部講師の話、校外活動は印象に残っている。最初の一步は強引でもいいのではないか。外部の方の話をしっかりと聞かせるとよい。

檜崎

中高連携の可能性はジャズバンド以外にはないか。

岡野

運動部などは可能性がある。しかし運動部に入部する生徒が少なかったり、土曜日の授業などがあつたりして、時間帯が合わないことがある。生徒会同士の交流も顧問が変わると進みにくい。

小野

中学校と同じ課題がある。矢掛中学校では、「教師が教える」から「生徒が学ぶ」に転換していくように取り組んでいる。生徒には言われたことをそのまますとか、長い時間をかけるとかではなく、批判的に考えてほしい。「～させる」では教員目線である。生徒の主体性を伸ばすこととは相反するものではないか。本校では「～させる」はNGワードにしている。

田中

生徒にはどのような働きかけをしているのか。

小野

ワークブックは授業で使うものだけに限定し、課題用のものを買うことは禁止している。与えられたものをやって満足するのではなく、自分で購入させている。事前学習はチェックすることで「させる」ことにつながるため禁止している。事前学習ではわからないことを事前に送信させるようにしている。生徒がやりたくなるように働きかけるようにしている。

吉岡

生徒が自主的に活動する時間を増やしたいと考えている。

岡野

やる、やらない生徒で二極化すると思うがどうか。

小野

主体的になれない生徒がいることは事実である。しかし、アンケートをとってみると、自主性に任せようが、教員主導で授業をしようが、積極的になれる生徒となれない生徒は同じ層である。来年度から教育課程を変更し、1コマ空けて、学習相談日を作った。

檜崎

中学校の授業を見てどうだったか。

横溝

わかっている生徒はどんどん先に進んでいっている。主体的に学習を行っていた。教え合いをしているグループもあった。

岡野

わからないところを教えあっていた。興味を持っていない生徒は少なかった。興味をもってやれば学習が進んでいく。進んでコミュニケーションをとれない生徒が2人ほどいた。全体をみて、どこを指導するのかを判断するのが教員の力量となる。

高校では最低限の学力をつけさせないと主体的な活動ができない。主体的な学習となるような授業をしようと思うと準備に時間がかかる。

吉岡

他の教科の授業でもどんなことを教えたいのかという視点に立ってみると、自分の教科に還元できる。

田中

一斉授業でも二極化が起こる。矢掛中学校では教え合うことで上位層は理解が深まり、下位層は引き上げられていた。

小野

中学校と高校の授業は違う。中学校では、生徒集団（人間関係）を作る上では学び合いが必要不可欠である。生徒の幅が広いので、狙いも3段階くらいあり、生徒それぞれで達成する段階が違う。

今日、授業参観をして、興味のない生徒は取り組みが悪かった。高校生の方が良くも悪くも主体性が高い。中学校では他の生徒に置いて行かれないようにしているだけで、そういった意味では主体性は低い。

田尻

保護者視点でみると学校が変わっている。自分の学生時代とギャップがある。今の勉強で大学に行けるのかが不安である。保護者に学校の情報を発信してほしい。保護者の理解が深まれば満足度の上昇につながる。狙いなどを教えてもらえれば助かる。それに伴ってPTA活動も活発になるのではないか。

田中

授業改善に取り組むようになった。「矢高の授業理念」を作っている。年度末を目途に保護者にも周知したい。

堀伸二

事業主が従業員を育てることと似ている。教える側は忍耐とエネルギーが必要である。中学校と高校の連携が深まれば、6年間の育成力が上がり、成長の期間が伸びる。

藤原

小学校教員の立場から意見を述べる。小野が言うように授業は人間関係が安定していることが最低条件である。担任の思いが生徒に通じているというのはキーワードである。生徒間で「わからない、困った」ということが表明でき、教え合える環境を作れるかどうか重要である。クラス内で、良い授業の理念が共有できると学習が進んでいく。100%を狙っていくのは難しいので、50%を目指してやっっていけばよい。全体を見る目と個を見る目は教員の大切な力量である。矢掛高校の少人数教育は生徒の成長に効果があると言われている。

岡野

最近の高校生は幼くなっていると感じているが、どう思うか。  
今の生徒はけんかに負けようとする。

堀伸二

そのような感じがする。

金子

げんかに負けようとするというのが驚き。従来の常識がわからなくなった。どこから負けようとしていることが分かったのか。受け身体質ともつながるのではないか。

岡野

事情を聴くと「自分は悪くない。自分は被害者だ。」と言ってやられたことばかりを主張する。「こなす」という言葉をよく使う。信念や責任感が弱い。弱者になることで自分の意見が通りやすくなる経験をしているのではないか。

金子

学ぶということは自分の立場を作るということである。

小野

大人になったところと子供になったところが極端に表れる。主体性はなくなってきた。少子化の影響がでているのではないか。人が少ないから常に守られており、人に揉まれていない。すべて教員がやってくれている環境にあり、幼くなっているのではないか。

入野

社会的な学びの大きなコンテンツがSNSになっている。「共感できる」ことを持つもの同士がSNSで集まってコミュニケーションを行っている。かつては対面するしかなかったので自力でいるんな人と仲間づくりが必要であった。やかげ学は非常にいい機会である。社会勉強ができるとてもいい場所だが、もう少し積極性をもって取り組んでほしい。

藤原

矢掛町日本語教室について、生徒の思いが淡白になっているように感じる。海外の方との話にネットで調べたことをあっさり伝えるだけである。かつては自分の思いを語っていたように思う。マンネリ化してきた感じもある。具体的に提示していく必要がある。チャンスを与えずではいけないのではないか。

15:20～15:30休憩

#### ④教育活動の進捗状況と今後の課題について

高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業の最終報告（吉岡）

矢掛中学校の生徒は基本は矢掛高校に進学してほしいと願っている。矢掛高校にないものを求める生徒が他校を選び、残った70%の生徒が矢掛高校を選ぶような想定である。今年度、中高連絡会を実施したり、中学校での説明会は生徒に担当させたりした。また矢掛中学校1年生には本校3年生が進路説明会を、2年生には本校教員が出前授業を、3年生には本校での授業体験を実施した。今年度は矢掛中学校から具体的な要望があったのでやりやすかった。本校のコーディネーターは高いレベルで仕事をしてくれている。引き続きコーディネーターと一緒に、広報や中学校との連携を行っていきたい。またコーディネーターの専門性を高めていきたい。

奥村

コンテストの指導を任せてもらえた。成果もあげられた。生徒には厳しい指導を受け入れられるよう指導している。生徒には恵まれた環境にいるということを認識させて、いろいろな場所で学んでいてもらいたい。

矢掛高校魅力化の現状（高月）

内（授業内容）を満たして外に出ていく視点を持っていく。いいものをしっかりと広報していく。卒業生に矢掛高校に来てよかったと言われることが目標である。自己評価アンケート⑩の内容で、2年生保護者の矢掛高校の満足度が下がっているところは大きな課題である。①（授業内容）と⑤（生徒

指導関係、人間関係)が課題であることは重く受け止めて進みたい。生徒指導関係で些細なトラブルが大きくなっていることが課題である。子供の言うことを鵜呑みにしている事例が発生し、親子と学校の対立構造ができる場面がある。探究コースの3年生⑩の項目も気になる。進路関係の不安があるのかと思う。進路課はこの5年間で最も充実しており、自信を持っている。2年生総合コース⑤の項目では服装や頭髪指導に不満を持っていると思われる。普通科を全県募集にし、特別入試の募集人員を40人に増やした。志願者数は普通科86人、地域ビジネス32人だったがこれで満足はできない。近隣の学校と、パイの奪い合いではなく、お互いの差異化を進めていきたい。そのためにも授業改善を進めていきたい。大学入試を考えると講義形式になりがちであるが、自分の高めたい力が高められるような授業を目指したい。1年生において探究コースより総合コースの人数の方が少ないのは久しぶりである。やかげ学の目標が曖昧になっていることが影響している。地域ビジネス科の満足度は学年が進行すると上がっている。目標がはっきりしているため指導を受け入れやすいと考えられる。総合コースの生徒へ、やかげ学やESDタイムでどのような力をつけさせるのか方向性をしっかりつけたい。やかげ学改革では、ルーブリックの手法を使った。矢掛教育会議で小学校の先生方と話す中で、生徒のどのような力を高校は高めようとしているのかが曖昧だったことが分かってきたので、主幹教諭を中心に改善を行った。

PBLについては、エキスパート教員に入っただいて、カリキュラムを考えた。他の学校との差異化をさらに進められる。文化祭の地域公開は、地元の方に見ただけというよい点も多いが、生徒同士で見る機会が減るという課題もある。

中高でお互いに顔が見える交流を続けたい。広報のやり方を含めて考えたい。町との連携も進めていきたい。校内の学習スペースを整え、地域に公開していきたい。「教職員の採用その他の任用に関する学校運営協議会要望」が了承いただけたら県教委に提出したい。

#### 授業改善 (田中)

授業改善は教員の永遠のテーマであり、学校で一番多くの時間を授業に使っている。良好な人間関係を築く力に課題を持っている生徒が一定数おり、その対応に時間が割かれ、授業準備に時間が割けないという負の循環が起きている。矢掛高校の3つの科・コースで個に応じた指導が展開されており、素直な生徒が多いという強みを生かし、どのような授業を展開していけばよいかを議論している。来年度に向けて研修計画も作っていききたい。

#### 檜崎

県教委への要望事項の案はこれでよいか。

全員  
了承

#### 質疑・応答

金子

どんなコンテストに応募したのか。コンテストに応募する生徒が増えているのか。

吉岡

以前からコンテストにはよく応募していた。奥村に指導してもらう機会を増やし、成果が上がっている。

金子

コーディネーターはどんな指導をしたのか。主体的な生徒が少ないということが問題になっていたが、こうしたことは積極性が高まる良い機会である。

吉岡

岡山県の発表会では教員が手を加えた発表が多く、それが優秀な成績を収めているが、それでは意味がないと思っている。奥村はコンテストの成績よりも生徒の成長を優先した指導をしている。

田尻

娘がよく参加させてもらっていた。コンテストはチーム戦である。チームで相談して、それぞれの長所を生かしてまとまったところがよかった。コノヒトカンなどは1人ではできなかった。友人のサポートを通じて実力と自信をつけられた。

藤原

コンテストで得た財産を次へ継承して行ってほしい。KSBの協力を得て矢掛高校生が作成した矢掛の春夏秋冬という素晴らしい映像があった。こうした財産を積み上げて行ってほしい。

吉岡

ホームページの中に蓄積がある。YouTubeやブログなどをもっと見やすいものにして広報したい。

橋崎

転学したり退学したりする生徒もいるのか。

田中

人数は言えないが若干名いる。

岡野

そうした生徒に対してもスクールカウンセラーにつなぐなど、対応している。次の進路を決めて、いろいろな人に関わってもらっている。

傍聴者

小学校、中学校、高校の立場が違う大人が集まって建設的な話が展開されていて参考になった。もっと具体的に聞きたかった。探究コースにおいて大学進学の実現と自主性の育成をどのように両立していくのか研究を深めてほしい。矢掛高校の野球部に長く関わっており、卒業生や在校生の野球部員に学校は楽しいかと聞くと、先生がたくさんの面接の機会を設けているが、「話を聞いてくれない」と言う。他校の卒業生に聞いても同様の返答であった。そのあたりの生徒に向き合って、生徒指導ができていないのか疑問である。

入野

矢掛高校の3年生を中心に映画製作をしている。コーディネーターが生徒との会話を吸い上げて形にしている。良い環境である。こうした活動を足掛かりに自主性を高めてほしい。

吉岡

コーディネーターがいるからこそできることである。例えばこの映画の告知ポスター作りにも生徒たちが熱心に語り合っていた。

### 3 連絡

奥村

1年生の芸術選択の生徒や有志の展覧会を行う。映画「いつもいつでも」の上映会を行う。

高月

来年度も継続して学校運営協議会の委員をお願いしたい。チーム矢掛として矢掛高校について継続して考えて行ってほしい。田尻委員はPTA会長を退くため、改選となる。

### 4 閉会

副会長挨拶（藤原）

町政懇談会の記録が届いた。矢掛高校に矢掛中学校の生徒の何%が通っているのかという話になった。住民の関心度は高い。町内外に子どもが矢掛高校に行ってきた（行きたいところに行けた、よい教員と巡り合えてよかった）と感じる住民もいる。その思いを知ってほしい。広報矢掛の裏表紙（矢高にロックオン）で生徒の様子は見えているが、教員の様子も見えるようにほしい。主役は子供たち。伴奏する教員の様子も併せて記事にしてほしい。山陽新聞にもお願いしたい。